

宴の後

佐藤徹郎（7組）

7月13日、上田発9時50分の軽井沢行きで小諸に向かう。施設にいる弟の容態は思わしくない。墓参りの真似事をして、35℃になるという炎天下、ここも祇園祭の神輿が練り歩く郷里を後に東京に戻った。

明けて14日23時、鍛冶橋バスパーキングから大阪万博西ゲート着7時30分の深夜バスに乗る。イタリア館のカラバッチョ「キリストの埋葬」を観るためだ。

16世紀末、宗教改革に対抗するローマで才能を開花させ、教会や大邸宅の壁面を飾る傑作を残した。画家の才能がどれ程かは専門書やSNSに溢れている。強烈な光と影、斬新な構図、理想化を排した写実等々。カラバジェスキと呼ばれる追随者を生み、ルーベンス、レンブラント、ベラスケスやフェルメールにも影響を及ぼしたとされる。

彼が特異なのはそれだけではない。徒党を組んで暴力沙汰を繰り返し、遂には殺人者となってローマを追われた。マルタに逃れ、騎士団の一員となることを認められたにも関わらず、ここでも暴力沙汰で収監され、脱獄してローマを目指す途次、熱病で死んだ。

1610年7月。38歳。なんという光と影。

カラバッチョ体験は2001年の庭園美術館以来、昨春の福岡市立美術館まで、上野からアベノハルカスの特別展、ルーブル、ボルゲーゼ、ウフィッツィ、アンブロジーアーナ等、美術館を各地に訪ねた。中でも「キリストの埋葬」と同時期に描かれた「ロレータの聖母」を求めてサンタゴスチーノ教会をつれあい共に探し当てた経験は忘れがたい。

7月15日7時30分、万博西ゲート前には職員がコントロールする行列ができていて青空のもと舗装された巨大な広場で9時の開門を待たねばならない。日はすでに高く大阪の炎熱は凄まじい。熱中症に気を付けよう。頻尿に悩む老人の事前調査によると、単独行の場合行列を離れると、元の順に戻ることはほぼ不可能。現地に来て納得であった。諸兄姉にはご安心あれ、紙パンツはいてます。ペットボトル3本と折りたたみ椅子付きリュックサックが威力を発揮する。

9時、イタリア館は西ゲートを入れてすぐ右側にあった。入口と通路を隔てた大屋根リングの下に2時間待ちの行列。並んでみると大屋根リングが熱射を遮り、意外に涼しい。ここにも光と影。

11時入館。目的は「キリストの埋葬」のみ。じっくり見た。実見するのは初めてで、展示の方法、スペース、ライティングのせいか、写真のように見え大きさを実感できない。それでも至福の時であった。逃亡前に描かれ、画家の傑作とされる。本物の光と影。

そもそも再現するのは無理だが、私のiPhoneでは特に左右の暗部がダメだった。新大阪で昼食を済ませて、14時発の新幹線で帰京。いささか疲れた。

最後に諸兄姉の関心事に一言、紙パンツのお世話にならずに済みました。ほんとです。見栄はってませんよ。安心が担保されていることが良かったのだと思っています。



「キリストの埋葬」(バチカン美術館所蔵)

(2025年7月28日記)

以上